



霞ヶ浦伝聞ノート

佐賀 純一編

この伝聞ノートは、霞ヶ浦と共に生きてきた人々の声を書きとどめることを通じて水と人とのかかわり合い、岸辺の人々の生きざま、時の流れの中に生々する様々な出来ごとを描こうとする試みである。

~~~~~ 渡りの日々 ~~~~~

語り・藤井 進

まあきけよ

いまはエンジン積んだ船で操業すっから腕の違いもあんまり目立たなくなっちゃったが、おれが16でおやびと（親父）にならって漁をはじめた時分は、なんでもかんでも櫓で漕がなけりゃなんねえ、その辛さつつたれば、そりゃあお話になりゃせんよ。ものごころつくころからサッパ舟（小型の舟）さのって、ともだちらと向う場（対岸）まで遊びにいきいきしてたから櫓を漕ぐのは朝飯前だったが、漁に出るつうのは、たあだ漕ぐつうのはわけがちがあから、そりゃあ口ではとても云えねほど苦労はありゃしたよ。

帆引き船で漁をやるときにゃまず風上さ向って二里も三里も漕がなけりゃなんねえ、船の長さは4間2尺、こいづに帆柱、網、そのほかのいろんなドウゴ（道具）一切合切積んでぐわけだ。夏場にエカイ風（強い風）さ向っていぐときは、さるまた（ふんどし）一本

だな。ちっと漕いだればたちまちジジョジジョんなっちゃまあよ、塩だらけだ、汗が乾いて体さえっばいくつついて、塩鮭みてえになっちゃまあつうぐええだ。陽が傾いたころ漕ぎだして、空が赤いころ漁場さ着いて、それで、網おろして、帆オ立てて、用意しなけりゃなんねえ、その日の風のぐええだの、温度だの、いろんなもんでその日の魚のいるところのはちがあかん、そんでみんな漁師つうのは天気みて、アア今日はどこらへんにいるなつうことを考えて、そこさ向って漕いでぐわけだ。ところが長年漁師やってるもんは、みんな考えることつうのは同じだかん、皆んなおんなじほうさ向って漕いでぐ、そんで競争になるわけだ、出来るだけいい場所さ早くいぎてえかん、仲間にゃ負けたかあねえ、そんで、みんな必死に漕ぐ、そいつがほんとに大変だったよ。

早く走るにゃ腕も強くなけりゃだめだが、

漕の良しもずいぶん関係した。櫓はハネ（弾力）が問題なんだ。いいハネの櫓は船がどんどん先さ進む、どうたにエカイ波がきたって、そのうねりに巻きこまれねえ、波を切って先さスワット出っつまあんだ。ろくでもねえ櫓つうのは、こいつがだめなんだ、なみに負けちまって力ばかり吸われっちゃう。櫓はまず固くなけりゃだめだ、材質がヤーククテ（やわらかくて）ねっとりしたようなやつは波にのまれちまって役に立たねえ、材は赤樫だ。いい材はこのあたりじゃ手にはいらねえんでしょうべえにん（商人）が銚子あたりから買ってきた。おれは櫓をこさえる時は、牛渡の菅沢達五郎に頼んだ、このひとは船大工だったが、櫓をこさえんのも上手だった、新しく櫓をこさえてみて少し漕いでみるつうと アア こいつはいい櫓だつうことが、すぐにわかった。おれが20歳のころ、一晚のダイリョウ（大漁）が水上げ十円ってゆったもんだ。船がオンノマルホド（沈没するほど）わかさを獲ってきて、ダイリョウダって大喜びしたもんだったが、そのころ櫓も一丁10円したっけね…………。

帆引き漁はオカ（陸）からみてるやづらにゃよ、真っ白い帆が湖にエッパイ浮んで、風にながされてそいつぁきれえなもんだが、実際やってるもんらは大変だ、まあ早くいやケンカだ、「テメエクタバレ、ワレハンジョウ、」だ。仲間が多けりゃ多いほど競争がきつくなから、みんな目ゑ剥いて、他人のことはおかまいなしで、相手よりどれだけ多く獲るかってことばかり考えているだよ。腕がいい漁師は船足が早いから、風上さむかつてズート深く入りこむ、腕の弱いもんは、同じ時間かけてもそれより手前までしかいかねえ、それで網を下すんだが、風上さ網を下したもんは、風下に向ってどんどん流れていく、も

ちろん風下の船も流れていくんだから、なにも支障はねえと思うだろうが、そうはいがねえ、だまってりゃすぐにプツカッチマウ（ぶつかってしまう）。それつうのは、腕の強いもんは、実入りがいいから、船の手入れもいいし、帆もえかい、櫓もいいのを使ってる、マア、普通の帆引き船の帆柱は、竹製で、二丈四尺、帆の巾は四十八尺、こいつが漁師の腕で大きくなったり小さくなったりする、こたぐええだから（こんな具合だから）、腕のいいもんの船は足が早い、それで、下の船に追いついまあってわけだ、そのまま進んだらば、ぶつかっちゃうまあから、こっちから進路を変えるかっつうと、まずそうたことはしねえ、怒鳴るだよ、

「イシャレー、イシャレー」とな、どけどけつうこんだ、つええ（強い）ほうはそのまま進む、よええ（弱い）もんはよけなけりゃなんねえ、なんつったって、漁師の世界じゃ腕のいいもんは一目おかれっからな、そんだからだれにも負けねえつう気持ちがなけりゃ漁師だつてつとまんねえよ。

帆引き漁は7月～12月が漁期だったが、11月も半ばをすぎるつうとろくに獲れなくなっちゃうんで、帆引きはやめて、「渡り」さ出だ。（一般には、ワダリ、と、濁った）渡りつうのは、船さ「張り網」を積んで、タナゴ獲りにそっちこっち渡り歩くわけだ。渡りに出るつうと渡り鳥そっくりで、家にゃふた月も、み月も帰らねえ、船に棒立てて屋根こさえて、雨露しのげるようにして、そんなかて暮らすんだ、煮炊きだつてひとりでやんだよ。昼間川ん中さ網張って、船は芦原ん中さ入れといて、次の朝早く網あげて、いい漁があれば、近くの魚問屋さ持ってって、金にして、その金で、米、みそ、醤油、まき、なんぞを買ってこんで、また別の場所さ船を移して、網

を入れたんだ、宿屋に泊ったとか、食堂に入ったなんて記憶は一度もねえね、ランプもつけなかったっけね、油代がかかっから。日が落ちたら月明りだけが頼りだ、もっとも、ひとりだからなあもすることがねえから、暗くなったらすぐ寝ちまった。

船中はけっこうあったかいよ、底さ藁しいて、そのうえさムシロ敷いて、そこさ布団敷くんだから、思いのほかあったかいもんだ。漁をやるもんは寒いなんてことは感じねえようになっちまあんだな。今は干拓されちまって見る影もねえが、佐原の前に与田浦があって、そのあたりはどこまで行っても葦原が続いてたんだ。仲間らは、そこらあたりを「ごせ隠し」だの「だいじゅう沼」なんぞと呼んだりしてたが、気味悪いところで人影どころかろくすぼ鳥だっていねえ、昼間だってお化けが出そうなところだったっけね。そうしたところさ入るつうと獲ったものを問屋さすぐは持っていげねえから、魚は網袋さ入れて水ん中さ生けておく、そうして、少しずつ場所を移して、そっちで二日、あっちで三日と網を張って、二週間もして、ここいらへんでいいべってことになったれば、生けておいた魚を上げて、問屋まで漕いでぐんだ。

渡りをやってる時には、ちよくちよく潮来さ寄った。あのころ、風呂が一銭五厘だ、〔米潮来は江戸時代に栄えた港町、大正末期まで水運の要衝として全国にその名を知られ、大きな遊廓があることでも有名だった〕こっちは10日も20日も風呂に入ってねえんだから、まるきし垢だらけだ、出来ることだれば風呂に入りてえとこんだが、その一銭の金が惜しくてなかなかへえれなかった。潮来の川岸に近いとこはべったら（みんな）女郎屋だったっけね。路地を歩いていぐと、両側に女らを置いてる店がズラートならんでギターら

が（牛太郎：ポン引きたちが）そのめえに立って通りがかりのものを店んなかさひっぱり込むわけだ。ところがおれはいっぺんも声をかけられるつうことがなかったっけね、むこうもこっちの様子見て、懐具合がわかるんだろう。こうしたわけで、潮来さ行っても宿なんぞにゃ縁なしで、街の下の川岸さ船をつないでそんなかで寝る、夕方んなると女郎屋は客でえっばいんなって、三味線の音がペンチャンペンチャンはじまる、太鼓の音が鳴る、女らの笑う声がする、宿の灯が水にチラチラ映るんだ、おれはその音を聞きながら波にゆられて眠ったもんだ。

銭のかかることは一切縁無しだったが、百姓とは付き合ったな。魚を網さ入れて近くの百姓家さもっていぐ、そうするつうと、魚と交換に何か食わしてくれたり、茶をいれてくれたりする。そんなでも、最初からはうまくいげねえことが多い、それつうのは、こっちはまるでこじきみてえにひでえ格好してんだし、顔も体もゴリラみてえだから、おっかながっちゃって（おそろしがって）口もきいてくねえんだ。ところが段々顔見知りんになってくるつうと、心も通じてきて、いろんな話をするようになる、飯を食わせてくれたり、風呂さいれてくれた家もあったよ。

病気なんぞしてる暇はなかったね。病気なんぞになるもんは、渡りにゃ出られやせんよ、死んちまあもの。漁師は街のものらとは人間がちがあから、体はすじがねいりで顔も手足も土人みてえで、減多なこんでは病気なんぞにゃなりやせんよ、寒中でも木綿のももひき一枚にはだしだよ。ソーデストモ、靴なんぞありやしませんとも、百姓でも漁師でも一年中ハダシですよ、戦後だよ、田舎でも靴なんぞはきだしたのは、そんだから、にんげんが

だんだんヤハ（やすっぽくて弱いこと）んなちまったんだ。

それでもおれも一度だけ渡りの最中に、胆ぶち出っしまったことがあった、（胆をぶつとは、胆嚢あたりの激痛、または上腹部痛を指す言葉らしい。） どうにも痛くて苦しくてしゃあねえ、それで船を葦原んなかさ着けて、一週間ばかしうなって寝てた。一日に一回ぐれえ起きだして、川の水飲んで、あとは丸くなって横になってたんだ、そしたら少しずつ痛みがいしゃってきたんで（ひいてきたので）

船漕いで牛堀までたどり着いた。それで古い仲間の齊藤松之助のとこさ行ったら、「こいつあ灸焼いてもらあに限る」って云って、問屋まで連れてってくれた、そしたら、今でも忘れねえ、ほんとにきれいな女がいてな、その女がおれのこと裸にして、灸焼いてくれた。そしたら、なんのことはねえ、たちまち良くなっちゃった。それで風呂にも入れてくれてな、もう生きかえったようになったが、あんときのことは今でも忘れられねえ。

— 漁師の嫁 —

語り・根本 ヤス

おらが嫁にきた歳かね、25ん時だな。んだから、ずいぶんここに巢食ってんだ。いまはおらは81になったからよ。

漁も百姓もやったが、漁やってっ時はいろいろあったなあ。子どもを舟さのつけて漁やって、子どもは舟べりから手え出して水さつけてカパカパやってあすんでるうちに（遊んでいるうちに）、舟からつっこでちゃって、（つっこです=落とす）おらは気いつかねえでいたればよ、すぐ近くにいた仲間の漁師がよ、「アレ！おめ、ガキ（こども）つっこでちまったどー」ってどなったんで、おら驚ろいてなあ、青くなっちゃったっけが、そこはそれ、危ねえと思って三尺帯で子どもの腰ゆわえてあったんでよ、つーっと引っぱれば、上ってきて、ちゃん生きてたっけよ。

魚とりに出かけっ時には、まあだ暗れえう

ちに出かけたっけな、朝も二時三時に舟出すんだ。出かけっ時は、飯のえっぱい入ったおひつを持っていぐんだ。あの頃は今たあちがあから、朝一時頃起きて、井戸で水くんで、天秤棒で担いで、その水で湯うわかしたり、飯たいたりした。なしてそうたにはやく（なぜそんなに早く）出かけっかつうと、遅く行くつうと、他の漁師にいい場所とられちまあがらよ。広い湖でも、その日の風向きだの水の具合だので魚の寄っところがまるきしちがあべよ（まるきりちがうだろうよ）、それで、漁師らは、その日の天気の場合で、アア、今日はここいらへんに寄んな、つうことが分っから、そこを一番早く取んべと思って、どこの家でも（どの家でも）競争して早起きして、ほかのてい（よその人たち）らにゃけっして負けめえと思って出がけたもんだ。そんだがら、漁師の嫁は、ほんとに苦労したんだ、朝早く出て、午後のそうよな、四時頃まで

は水の上で働いたなあ、舟から降りたれば、百姓の仕事があるし、家んなかのこともあれこれやんなけりゃなんめえよ、そんだから、洗濯なんぞは夜も10時、11時にやったりしてよ、お月さま見ながら干したりした、んだからあんましたいへんで、まあ、洗濯なんぞは今の人らみてえにしよちゅうやるなんてこた、できなかつた。

おらは嫁にきた時は、こうたにつれえ（これほどつらい）思いするなんてこた考げえてもいながつたがら、やんなつちまつたつけよ、いづも（いつも）眠たくてなあ、舟さ乗んのがつらくてよ、こつたらことだら、ぬげだして（にげだして）小商（こあきない）でもやったほうがいいって、幾度思つたか知んねえが、他の家の嫁らが我慢してんのに、おらだけが逃げるつうわけにもいがなくってよ、まあ、もすこし様子見てみんべ、って思つてるうちに馴れてきて、そんでいづの間にか、巢食つちまつつうわけなんだ。

魚は取れたつけね、網引けば、取れねえなんつうことは、まず無かつたね。ある時こうたことがあつたつけよ、そんな時はバタッピキ（川地引網）やって、鮒が取れ過ぎちまつて、ここらあたりの間屋では買つてくんねえ、そんでしゃあねえがら、「石岡まで持つてって売つてくんべ」つうことになつて、荷車さ魚を山積みにして、売りに行つた。おっかさん（しゅうとめ）が先引いて、おらが後押ししてつたんだ、ところがしばらく行つたれば、大和田の坂があつて、そこを苦労して上つたのはいいが、そつから先がなんとしても動かねえ、それつうのも、その日はたまたま飯食わねえで漁やって、そのまま出掛けつちまつたかんだ。はあはあいいながら、畑んなかの路を荷引いてつたが、目は回るし手はしび

れるしで、そのうちどこをどうたふう歩いてんのか分なくなつちまつた。弁当も持たねえんで、しまいにゃ倒れそうになつちまつたつけよ、そしたれば運のいいことに顔見知りの男がそこさ通りかかつた。事情話したれば、「そんだらおれが引いてつてやつから、おめらはおれの空車（なにも積んでない車）引いてこう」つて言つてくれた、そんでおらたちは喜こんで空車引いてつたが、すぐまたへたばつちまつた、こん時ばかりは、飯を食わねえつうのはほんとにひでえもんだと、つくづく思つたつけよ、

そやって、石岡さ、ようようの思いで着いたつけが、町のもんらは、漁師が持つてつた魚なんぞ馬鹿にして買つてくんねえ、「どつからか拾つてきたんだつべ」とか、「傷もんで食いもんになんめえ」なんぞと言つてなあ、そんで、くやしかつたが、どうにも売れねえんで、仕方がねえ、おらの実家が石岡の在にあつたんで、泣きづいで、どうにかさばいてもらつた。実家のおっかさんは、「こうたら遠くまで、よくも来たもんだ、したが（けれども）こつたらことは（このよなことは）、げえぶん（外聞）が悪いから二度とやんねえでくろ」つて言つて、迷惑そうだつたつけよ。おらも、もうはあ、こりごりしたから、それから持つていぐよなことは、二度としなかつたつけよ。

腹がえかくなつても（おおきくなつても）まいんち舟さ乗つて漁をやりやりしたが、二番目の娘は、陣痛が来て、家さけえんのがまにゃあなくて（間に合わなくて）、舟んなかで生んじまつたから、霞ヶ浦の浦あ取つて、浦子つう名前をつけたつけが、ほんとにたいした病気にもなんねえで、丈夫に育つたつけよ。

風 呂

語り・飛田 実

家のすぐ下が砂浜で、その先がもう湖だ。葦が茂って、ヨシキリが鳴いてるのが家の中から見えたよ、今は堤防が出来ちまって景色もまるきし（まるきり）変っちゃったが、…

昔は浜の水で洗濯したり、顔あらつたり、飯炊きしたりしたんだ。水べりには、「出し」って云って、板で二段の階段がこさえて（造って）あった。水が増した時は上の段、水が低いときには下の段で仕事をしたんだ。雨でも水位はずいぶん変わったし、潮加減でも変わったかんなあ、大潮の時は、尺五寸近くも変わったろう、常陸川の水門が出来てからだな、潮で水位が変るようなことが無くなったのは。（昭和38年完成）

魚は、ソリャァ、今の人らにゃ想像もつかねえほどいたよ、「出し」の上からご飯粒を流すと、一尺もある鯉だの鮒が、ゴヨゴヨうほど群れて集まって来た。ボラ（Mugil cephalus）なんでもそれこそ驚くほどいたんだ、何百、何千つうほどのボラが群れて泳ぎまわってんのが見える、水の色が変わって、渦巻いてんで、それと分んだ、そんで、子どもらは、裸になって、そろーっと遠まわりして泳いでって、急にみんなして、ワーッ、って大騒ぎしながら浜の方さ魚を追うつうと、ボラが驚ろいて逃げて、何百匹も浜さ上っちゃう、そうたことはしょっちゅうありましたっけよ。ボラはとともきれいな魚ですよ、五寸ぐれえのやつ、こいつはその年生れたやつで、肌がピカピカ光って、ほんとにきれいなんだ、二歳のボラは一尺ぐらいにもなるが、

こいつを釣った時の手ごたえは、そりゃ何とも云えないね。

風呂は家の中に置いとくと、水汲みが面倒くせえから、春から秋までは、桶を水べりさ持ってって、葦を刈って、苫をふいて（葦を編んで屋根をつくること）、風呂場をこさえた。こうしとけば、すぐ下が水だから、水汲みも楽なもんだ、天秤棒で運ぶ手間がいんねえ。焚木はそこいら辺から流木を拾ってきたり、藁だの、枯れ草を刈って燃やしたっけね。漁師らはみんなそうした風呂に入ってた。中にゃ、苫を切んのが（苫をふくのが、と同意）面倒くせえからって、雨がふる日にゃカラカサさして入ったり、風呂の横っちょさ棒立てて、その棒さ傘をしばりつけて入ったりするもんもいた。天気の日には、星空をながめたり、夜の湖に月が上んのを見たりしながら、いい気持ちで湯さつかったもんなんだ。

ヨシズなんぞでは風呂は囲わなかったね、んだから、遠くからでもまる見えだよ、もちろん娘らもそんな風呂さ入ったんだ、そんだから、色気についてきた若けえもんらは、「湯場回りすべ」なんぞとって風呂のまわりをうろついたりする。「あすこの家のむすめはいい女だから見にいんべ（いってみよう）」なんぞとって忍んでいったが、あたりは真っ暗だから、水さツッペエツタリ（落ちたり）蚊に食われたり、そりゃ、なかなかの苦労をしたもんだ。

寒くなるつうと、桶を家ん中さ運んできた。

それでもあの頃の風呂場なんつうのは、外にあのどたいして変ななかったが、桶の下に石の一つも置いて、その石が洗い場だ、手ぬぐいも真っ黒けで、今なら雑巾にもしねえようなしろもんを、頭のうえさのつけて……石けんなんぞ無かったね、女たちは粘土なんぞで髪を洗ったりした。

暗くなるつうと、そこらへんの板の出ばりさローソクを立てたり、家によっちゃ提灯をぶら下げたりした、電気を風呂場さ引いてる家なんぞ、一軒もなかったね。戦後もしばらくたってからだったけな、豆電球さ長いコードをくっつけて、そいつを風呂場さ引いたのはな。

~~~~~ 麻生の浜辺 ~~~~~

語り・鈴木 はま

水はきれいだったのなんのって、今とは比べものじゃありません。だってね、漁師らは、浜さ浴ってズート家建てて住んでただけど、井戸を持ってる家なんぞろくすっぽないんだ。飯炊くのだって、風呂わかすのだって、浜の水そのまま使えばいいんだから、井戸なんぞ必要なかったんだ。上からのぞくと、底まですき透って見えたんだからね。

昔の浜は、いきいきしてて、ほんとに気持ち良かったっけ、砂が日に光ってピカピカして、漁師らは、大声あげて網引いて、女らは籠持って魚を運ぶ、子どもらは、そのあとくっついてワイワイ騒いだり、手伝ったりするもんもいる。とにかくにぎやかだったよ、あの頃の浜辺つうもんはねえ、今は人影もろくすっぽ無いつうんだから、死んじまったも同然だよ。

こどもん時、おてんばだったからねえ、夏なんぞは素裸でいちんちじゅう遊んだ、遠浅だったから、シジミなんぞはいくらでもとれた、膝小僧ぐらいまで入って足の先で砂ん中をかまわしてっと（かまわしていると）、

小1時間でバケツに何ばいもとれた。

大徳網の網元の家も麻生には、二軒もあった。（大徳網とは、全長2-4Kmもある大型の魚網、浜から引く地引網と、沖で引く沖網があった）私らは子どもん時からしょちゅう手伝いに行ったよ、村の百姓らは、娘も年寄りらも、田仕事の合間には、みんなして手伝いに行き行きしたんだ。なにしろ、金になったから、百姓仕事てのは、その日働いたから、いくらいくらのお金なるつうことはないが、網元んところで働けば一網いって金が入ったんだから、それが魅力でみんなして手伝いにいったもんだ。大徳の網引きは、日暮れから夜中いっぱい、明けがたまでやる、網船つう、えかい（大きい）船さ網を積んで、沖の方さ漕いで行って、ここいらへんでいいべつうことになるつうと（ここらあたりでいいだろうということになると）、網を降して、湖ん中さグーッと引き回す。回し終わったら、網の両端から伸びてるロープを浜から引くんだ、素手なんぞではとても引けねえ、8人もの男らが八丁のカグラサンをかけて、えんやらや、えんやらや、と巻くわけだ。（カグラサン：

神楽棧、漁師たちが大規模な網を引く時に用いた一種のロクロ。カグラサンは心棒とそこから出ている6-8本の柄からなり、柄を引くとロクロが回転して、ロープが心棒に巻きつき、その結果ロープの先についている網が引き寄せられるというしくみになっていた。)

漁師らがカグラを巻く時つうのは威勢がいいからねえ、ねじりはちまきして、足をふんばって、体いっぱい汗がしながら、エンヤラエンヤラ巻きあげんだ、女らはそばで拍子とって、声出して、ホレキタ、ホレホラ、ホレキタ、ホレホレ、ホラホレホラホラって、そりゃあにぎやかなもんだったよな、

いよいよ網が浜に近くなれば、今度はカグラをやめて、浜にいるものは、男も女も子どもらも、みんな網につかまって、力いっぱい引く、「ホレッ、ぶらさがってなんぞいねえで、ちゃんとして引けっ」なんて、男らに怒鳴なれたりしながら……網がようやくと浜さ上るつうと、女らが大勢して、魚を籠さ入れる、漁師らはすぐに網を船さのつけて、沖さ出る。一晩にこうやって三回ぐらひは引いたから、夏場の頃は浜のものはほとんど徹夜だった。疲れるとめいめい家さ帰ってゴロット二、三時間横んになって、起きたらまた出ていぐんだ。

いろんな魚が取れたねえ、ワカサギ、シラウオ、コイ、フナ、ウナギ……時にはタコだのカレイ、シャケなんぞが入ったっけ、取った魚は女らが選別する、魚を種類ごとに別々の籠さ入れ分けるわけだ。お金になるのは、ワカサギ、シラウオ、コイ、ウナギぐらひで、鮎なんぞはとれすぎて売ることもできずに、畑の肥料にしたりした。ワカサギは、塩煮にした。こいつを干して、カマス(藁で編んだ

袋)にいれて、町の間屋さ売ったんだ。

塩煮にすんのはな、網元の家にはえかい釜があつてな、こいつの大きさは、そうよなあ、直径が三尺、深さ尺五寸ぐれえのもんだろう、この釜が土間に五つも並んでる。それぞれの釜に塩一升、水三升の割で入れて、そんさワカサギを二貫目ぐらひ入れる、こうしたもんを、2.3分グラグラッと一吹き煮立てせるんだ、煮上ったら網ですくい取って、籠の中さ移して、次のワカサギを釜の中さ入れる、そのうち釜の中に油が浮いてくっからこいつはぜんぶ、丁寧に取っちゃう。そうでねえと、ワカサギが油で赤くなっちゃって、品質が落ちんだ。こうして煮たものを、天気の良い日に浜さいっぱい広げる、むしろを百枚以上も広げて、天日で干すわけだ。んだから、夏の浜辺は干したワカサギでいっぱいになっちゃあんだよ。

干し上ったワカサギは、問屋でも買いにきたし、籠を背負った行商人らも大勢買いにきた。若い女もいたし、年寄りもいたな、とにかく網元の家にはいろんな人が出入りして、ほんとに活気があつたねえ。網元の家に入りして一番嬉しかったのは、いつでも腹いっぱい飯を食わせてくれたことだ、働いた人は誰でも台所さ行って食わせてもらえる。そんだから村のものは、腹が空くと、「大徳さ手伝いにいぐべか」なんぞとって出かけたりのもんだ。恵比寿講の日なんぞは、それこそ大した大盤振舞いで、大ごちそうは出るし、酒は飲みほうだい、浜であれほど楽しい日はなかつたねえ……ほんとにあの頃の網元は神様みたいだったっけ……これから後は、ああした景色は二度と見られまいよ。

(英訳本が近日中発売されます)

松枯れについて

鈴木 幹男

名松が枯れてしまって、昔の面影を失ってしまった亀城公園の、せめて残った57本の松を守ろうと、一昨年、茨大鈴木先生のご指導で、庭のサビカミキリ捕獲作戦を展開したところ今年是一本の松も枯れなかった。鈴木先生の熱意と根気と、理論の正しさを証明した次第

何故松枯れが防げなかったか？

年間1千万本を超える被害を出し続けながら日本列島を北上中の「松くい虫前線」は決め手のないままついに昨年（1982）青森、北海道を除く全域に達した。とりわけ地元茨城県では5年連続日本一の被害量を記録した。この中には亀城公園の宿木の松クロマツ、鶴の松をはじめ、偕楽園の羽衣の松、八郷の有明の松、筑波山中腹帯の名松が数多く含まれている。一方松枯れの防疫対策は1977年施行の5年間の時限立法を10年間に延長して空中散布（特別防除）を主とした防除（予除）作戦を展開、今日に及んでいる。にも拘らず、松枯損は一向に終息することなく、未被害林へ転移拡大しているのは何故であろうか？

これに対して対策関係者らは“薬剤散布は効果があった”と評価しながらも、松枯損は気象要因が直接関与するかのごとき答弁が随所に伺えるところに従来の説が真の主因ではないという不安が隠されていると受けとられても弁解の余地はないであろう。

事実従来の説では証明しきれない矛盾が生じ問題視されているのは事実である次に重要と思われる問題点をいくつか取り上げてみたい。

- ① 相利共生説を裏付ける後食痕が全く見当たらない枯損木が圧倒的に多い。
- ② 松を枯らす力のないニセマツノザイセンチュウの高率検出。
- ③ 「面」から「点」へ重点的防除に切り換えた1979年以降も顕著な効果は見られな

い。

- ④ 偕楽園の「羽衣の松」八郷町の「有明の松」は1979年に薬剤散布用のスプリングクーラーを取り付け集中管理を行ったにもかかわらず翌年には両者とも枯死した。
- ⑤ 広域伐倒焼却など最善の策を実施した東海村、伐倒後遠距離搬出の茨大農場防風林では20%以上の激害型枯損が5年間続いた。また、全国的にも同様の枯損経過が見られ、京都嵐山の場合もその一例。
- ⑥ 単木枯損、林分では優勢木、荘齡（大径木）など粗皮形成率の高い健全木から先に枯損し、被圧木の残存が目だつほか、クロマツよりアカマツの残存木が多い傾向あり。
- ⑦ 平常気象年および1980年以降冷夏の環境下でも10%以上の激害型枯損が発生した。
- ⑧ 主因とされるマツノマダラカミキリとマツノザイセンチュウ両者不在の林分でも激害型枯損発生。
- ⑨ マツノマダラカミキリ（ベクター）の生息数が極少（1林分当り20匹）と低く激害型枯損を招く前駆的（後食）関与要因としては質量とも微弱である。その一例として筑波地区空散実施面積約80h内で1977～1983の7年間に拾集したマツノマダラカミキリは総数僅かに18匹であった。この間筑波山神社所有のアカマツ（胸高50cm以上）約1200本が枯死（同神社調べ）。東大地震研究所周辺の50数本の松は全滅した。
- ⑩ 隔離的環境下にある松の枯松。その一例としては土浦市の街の中央に位置する亀城公園の松1976（51）年薬剤散布開始年に

は113本あった松（樹齢最高300年の鶴の松）が1982（57）年までに56本が枯れ、残り57本となった。このような隔離的環境および清掃管理の行き届いた条件下にあり、しかも松枯れ以前から地上散布を開始し、1979（53）年以降は伐倒処理を併用し入念な防疫対策を実施してきた公園内の松が半数が枯死した事実から推して枯損の原因はマツノマダラカミキリ（ベクター）の飛び込みによるマツノザイセンチュウ伝搬の可能性はありえないと断言する。以上述べた状況証拠から松枯損の真因は園内に残存している「切株」から発生したサビカミキリ（アルホパルスルスチクス）であることが判明した。切株には多くの成虫脱出跡が表面、側面、露出根上に明瞭に認められる。この結果松枯損に關与する種の加害部位が根幹部を含む樹幹（粗皮形成）部であるところから後食予防に焦点を合わせた樹冠部への薬剤散布は有効に作用せず莫大な経費を投入し、7年間もの年月を費やしたにもかかわらず松枯損を終息させ得なかったゆえである。

亀城公園の松枯れ終息宣言あと一息か？

隔離的環境下にある上、松枯損対策も早くから構ぜられ、樹上への薬剤撒布も年4～5回（有名松には6回以上、樹体への局所施用も含む）も施用し、さらに栄養剤などの供与も重ね、一方枯損木伐倒後直ちに全て園外に運び出されて、枝葉焼却などを含む完全処理が行われてきたという土浦亀城公園の場合、かつて113本あった松は1982年までに56本が枯れ、残り57本となった（本誌No.20号）従来の松枯損關与要因の主たるものとされたマツノザイセンチュウとそのベクターであるマツノマダラカミキリの質量が共に松枯損の実態に合致しないことに着目し、他の要因の検

索に着手したのが3年前であった。特に今まで殆んど調べられなかった松くい虫の夜の行動生態観察を重点に据え、深夜および徹夜にかかる連続調査を行って来た。この過程で多くの知見を得ることができたがなかなか、サビカミキリ *Arhopalus rusticus* Linn'e との出合は松枯損の真因究明に大きな手がかりとなった。しかし本虫が健全木に關与するという私の事実に基いた提言はそう簡単に受け入れられそうもないが、サビカミキリ成虫の物理的除去（素手による捕獲、切株の抜根、封じ込め、粗皮部の保護）により枯損を避けえた数例がある他、本虫の接種によって衰弱と完全枯損を生じさせた実験例からして、サビカミキリの前駆的關与はほぼ明らかである。その一例として亀城公園での捕獲作戦（本誌No.20“夜のカミキリムシ作戦”）が見事成功したとみられる。1983年度のサビカミキリ捕獲数278匹で、性別は雌140匹雄138匹この頭数は量的に見て大径木3～5本を枯らすことの出来るパワーがあると評価できる。なお1984年度は両面作戦を展開して關与虫の激減をねらった。第1手段として1982年伐倒の切株を成虫脱出口の穿たれるのを待って、ナイロン製網で覆い成虫を封じ込める法を構ずる一方、前年同様素手による捕獲を行った。1984年度の捕獲数は41匹で、性別は雌19匹、雄22匹で昨年より著しく減少しており、放置すれば中径木1～2本を枯らす程度のパワーであり、分散關与すれば許容レベルを下まわる量である、こうして亀城公園の松は2年連続1本の枯損を見ることなく青々とした姿で秋を迎えたが、茨城県下ではまだ数パーセントの枯損が見られるので完全な終息宣言は早いかもしれない。

（茨城大学 農学部）

霞ヶ浦をよくする市民連絡会議経過報告

58.6 - 59.9

6.15 桜村給食センター見学, 8人参加, 宮本所長から現場の生の話をおききし, センター職員全員とディスカッションを行う。

7.2 33回事務局会議 出席8名・水質調査の件・給食センター見学の報告・県教育庁と給食会へ洗剤に関する要望書提出の件

7.4 読書会 7名 田沼式生ゴミ処理機を実験的に奥井宅に設置

7.7 水質調査会議 8名

7.8 水質調査通信No.1発行

7.14 水質調査会議 8名 今年は今地主義で, 現地で班を組む事, 電話設置は費用がかかるのでやめる事をきめる。

7.20 34回事務局会議 “学校給食の洗剤についての要望書” 文案の検討・会費徴集団体3,000円個人1,000円ときまる。

7.22 水質調査団会議

7.27 35回事務局会議 8名

水質調査

7.30 新利根川本流

7.31 小野川本流, 支流

8.2 花室川

8.3 潮来 鹿島

8.4 北浦 巴川 鉾田

8.5,6 北浦 恋瀬川

8.7 土浦 谷田川 出島

別途調査 土浦工高 美浦中 筑波大水の会

水質調査団通信No.2発行

7.31 水質調査団通信No.3発行

8.1 読書会 岩崎宅

8.7 水質調査団通信No.4発行, 水質調査ご苦労様会12名出席

8.24 学校給食洗剤についての要望書提出

要 望 書

茨城県教育 長 殿

茨城県学校給食会 殿

霞ヶ浦富栄養化防止条例実施後, まもなく1ヶ年になりますが, 水質浄化の兆しはまだまだ遠いようです。

学校給食の洗剤については, 特別な指示がないままに, 各給食センターは学校ごとにいろいろなものを使用されているのですが, 価格の点等で, 今だにLAS (直鎖アルキルベンゼンスルホン酸ソーダ) 系の合成洗剤を使用している所が多い (昨年2月の調査で70%) の現状です。

御存知のように, LASは自然環境中での分解が悪く生体に及ぼす影響も, かなり多いといわれており, 神奈川県等でもLAS系合成洗剤禁止の動きが出ております。せっかくの富栄養化防止条例をよりよく運用するためにも学校給食等の公共事業が率先して, 細心の注意を払って汚濁の防止につとめなければならないと思います。

どうぞ学校給食及び公共事業の中で, 粉石鹼の普及拡大に努めると共に, 使用する洗剤の中から, LAS系の合成洗剤を追放して戴きたく要望します。

水戸在住の会員が中心となり6人で県庁と学校給食会へ説明しながら提出する。

回 答 書

霞ヶ浦をよくする市民連絡会議
奥井 登美子 殿

まずもって貴会の環境浄化に対する御活動に深甚なる敬意を表する次第です。

さて、去る8月24日、貴会より御要望のありました学校給食の現場における「粉石けんの普及拡大とLAS系合成洗剤の使用追放」について回答申し上げます。

本会においては、自然環境汚染問題につきましては当然のことながら重要な問題として認識しており、「霞ヶ浦富栄養化の防止に関する条令」が公布される以前に、有リン合成洗剤の取扱いを中止しております。

また現在の方針として、できるだけLAS系から高アル系の合成洗剤に切り替えて利用いただくようお勤めしております。因に、昭和57年度における本会の取扱いは、高アル系が70%強という実績になっております。

食器洗浄用の粉石けんにつきましては、実需がありませんので取扱いをいたしておりません。需要のない理由として、給食現場における洗浄機の機能が、合成洗剤使用を前提として開発された経過があり、直ちに粉石けんに切替えることについては難しいこともあり、現場での作業体制にも直ちには適応し難い事情がありますことは御承知のことと存じます。

以上が本会が当面しております諸般の状況です。

今後の方針として、次の諸点を中心に業務を進めて参りたいと考えております。

1. 高アル系への切り替えを従来以上に進めるとともに、粉石けんを含めて、より安全で高能力な代替品の提供ができるようデータの収集に努めます。
2. 汚れの集中を避けるためにも、児童生

徒の一人一人が食器をきれいにして返納する習慣形成が給食現場で実現するよう、様々な機会に提言して参ります。

3. 粉石けんが使用できる設備の整備について、行政サイドへの働きかけに努めます。

昭和58年9月20日

財団法人茨城県学校給食会
理事長 川野邊 四郎

昭和58年9月30日

霞ヶ浦をよくする市民連絡会議
奥井 登美子 殿

茨城県教育委員会教育長

洗剤を食品及び飲食物容器に使用する場合の使用基準については、食品衛生法に定められており、本県の学校給食施設におけるその取扱いについては、説明会並びに文書により周知を図り、適正な使用に努めているところであります。

今後とも関係機関と今後の使用洗剤の選択や使用方法等に検討をまいります。

なお、関係者の研修会等において、県内で粉石鹼を使用している施設の実践発表および研究協議等を行い、洗剤に対する意識の高揚並びに各学校給食施設における粉石鹼使用の導入契機を図ってまいります。

9. 5 読書会

9. 9 36回事務局会議 8名・学校給食洗剤の要望書提出の報告・水質調査参加者人数報告と今年の調査の問題点反省・9/23, 9/24 合成洗剤研究会の案内。

9.23 合成洗剤研究会 ところ 茨城県土浦市民会館

★公開講演会★

- ① 洗剤問題の整理 小林 勇
- ② 科学者と消費者運動 河辺 広男
- ③ 簡易測定法とその意義 天谷 和夫

★全国交流会★ 《石けんは何故減ったか》

9.24 ★シンポジウム★

《洗剤と行政規則》

- ① 霞ヶ浦の汚濁機構と条例制定 高島 永幹
- ② 霞ヶ浦条例の問題点 奥井登美子
- ③ 琵琶湖条例その後 藤原 邦達

★特別講演★ 《神奈川県洗剤対策をめぐって》

市民会館ロビーで37回事務局会議・学校給食洗剤の解答をめぐって

9.29 10/15水質調査報告会・全体会の打ち合わせと案内状発行

10.3 38回事務局会議 報告会の役割分担

10.8~10 筑波大学学園祭 水の会が提案して学園祭での食堂、その他で石けん使用を徹底し、話題となった。

10.15 水質調査報告会と第11回全体会於土浦社教センター

水質調査参加者のほとんどの人が出席し、意義のある討論会となった。45名内容のくわしい事は“清流はどこへいった”No.Ⅱに記載

10.26 霞ヶ浦だより第6号発行

10.27 水質調査の調査結果として話題になった竜ヶ崎市し尿処理場の見学 5名参加

11.7 読書会と水質調査報告書作成打合せ

11.10 39回事務局会議 7名・竜ヶ崎市し尿処理場の見学報告・合成洗剤追放全国会議出席の報告・名簿整理の件・水質調査報告書の部数と作成費用

12.5 読書会と水質調査報告書の作成分担

12.24 40回事務局会議と1年の反省をこめ

た忘年会 17名出席

— 1964 —

59年1.9 読書会

1.25 41回事務局会議 9名・総会に向けて名簿作り、会費徴集・事務局体制作り打合せ

1.31 霞ヶ浦だより第7号発行

2.6 読書会 8名

2.6~15 会費徴集と名簿の再確認

2.17 42回事務局会議 総会の打合せ

2.22 霞ヶ浦だより第8号発行

3.3 総会 亀城プラザ 51人出席

計画の提案

- 1. 霞ヶ浦条例の点検
- 2. 開発問題の取り組み
- 3. 洗剤問題の取り組み
- 4. 水質調査

霞ヶ浦をよくする市民連絡会議の申し合わせ

霞ヶ浦をよくする市民連絡会議は、1981年5月の「霞ヶ浦と洗剤」シンポジウムを主催した個人と団体が、シンポジウムの後も引き続き霞ヶ浦浄化の運動を続けていこうと結成したものです。

発足時に

「会、会則、会員などというかた苦しいことは抜きにして、あくまでも参加者の一人一人が平等の主催者という意識でイデオロギー抜きで活動する」ことを確認しました。

共同行動の原則は

- 1. 提案した人が責任をもって実行する。
(言い出しっぱの原理)
- 2. 一致した点で共同行動する。
- 3. お互いの独自性を尊重する。

会員はこれらの主旨に賛同した上で定められた年会費を払うように努力します。

年に1回は総会を開いてその年度のまとめを行い、次の年度の計画を作り、事務局のメンバーを確認します。

事務局は、霞ヶ浦をよくする市民連絡会議の日常運営を行うために、

総務：全体のとりまとめ

会計：会計事務

情宣：霞ヶ浦だよりの発行

連絡：会員との諸連絡

3. 9 43回事務局会議

事務局 安齊、県南生協、労生協、新婦人、
原田地方労、くらしの会、自然を守る会

総務 自然を守る会 土浦くらしの会

会計 労生会

連絡 地方労（TEL） 新婦人（書類）

情宣 原田（霞ヶ浦だよりの会） 県南生協

4. 14 利根川流域 上下流住民団体の話しあひ。 原田参加

4. 25 44回事務局会議

5. 24 45回事務局会議 11人

水質審議会「答申」の勉強会

◇ 童話館 20人

◇ （講師） 田 淵 俊 雄 氏

（茨城大農学部・水質審議会委員）

◇ 茨城県の水質審議会は1983年12月15日に答申「霞ヶ浦の水質浄化の方策について」を県知事に提出した。この答申は、霞ヶ浦の流域管理を念頭において、本質的な対策を提案するものとされている。

内容は、自然浄化機能の活用、土地利用のあり方、導水による浄化など、重要な提

言がなされている。

この答申について、実際に審議に係わられた田淵先生に解説していただくことになった。

（田淵先生の説明）

条例で当面の対策を行っているが、さらに長期的な浄化の方策を考えるのが目的。

①自然浄化機能の利用 ②土地利用のあり方
③導水による浄化の順で検討を行なった。

①については、昔から利用されていたが、現代かえって破壊されている。土壌の利用など施設化は当然として、自然にある山林農地湿地などを保全し、使うことをすすめたい。とくに森林の保全が重要で、より拡大する必要がある。これは財政的問題と住民の意識の問題があり、土地利用のあり方につながる。

森林、池沼の保全は審議会の中で議論があり、答申としては、歯切れが悪くなった。林を見ると、「未開発でもったいない」というのが、一般の見方で、自然保護と霞ヶ浦浄化の観点から啓蒙が必要である。

導水は①②とは異質で、導水が効果があるかどうかを審議したのではなく、建設がすすめられていることを前提に、影響を検討した。

個人的な意見として、霞ヶ浦流域では水田の活用をあげたい。休耕田で、エサ米、アルコール用米を作り、浄化に利用するとよい。畑地、樹園は、チッ素除去にならない。

Q. 家庭排水の土壌処理を県が推進するのに、厚生省や建設省が許可しないといわれているが？

A. 浄化槽法の改正できびしくなった。農水省の農村下水道ももめている。

Q. 住民の森林管理運動とは何か？

A. 具体的にはない。事務局が書いたものだ。

Q. 県のようなすを見ると、条例で施設は終っ

た。あとは導水に期待する、ということのようだが、総量規制、土地利用規制など、条例で残された問題も多いと思う。

A. 環境局は熱心にやっているが、地道にやるべきことをきちっとやることも必要だ。

Q. 合成洗剤の環境に対する影響は？

A. 今回は議論されなかった。

(感想) かなりぶしつけな疑問にもていねいに答えてくれた田淵先生に感謝します。この中で感じたことは……

1. 審議会が事務局(県の役人)の主導でおこなわれ、自主的な調査をしていないこと。
2. 導水については、アセスメントがなされていないようで、不安が残る。
3. 自然浄化機能の利用、土地利用のあり方については、答申と住民が考える浄化案と一致する点が多く、今後、森林の保全、拡大、地域での資源リサイクルなど具体化していく必要がある。

資料〔霞ヶ浦専門部会調査結果の概要〕

I 自然浄化機能の活用

II 土地利用のあり方

III 導水による浄化

霞ヶ浦だより第10号発行

6. 3 利根川流域住民団体交流会

群馬 群馬県水をきれいにする会

埼玉 合成洗剤を追放する埼玉連絡会準備会

千葉 合成洗剤をやめて石けんを広める千葉県連絡会

茨城 霞ヶ浦をよくする市民連絡会議(原田)

東京 河川、湖沼と海を守る全国会議東京事務局、協同組合石けん運動連絡会、生活クラブ生協東京石けん運動研究会

6. 9. 10 全国自然保護大会 八ヶ岳大会 原田

6. 13 県への質問書内容検討

6. 22. 23 第10回日本環境学会 東京農大

質汚濁分科会で

霞ヶ浦の仲間からは、松井さんが「取手の地下水」原田さん「霞ヶ浦の水道水中のトリハロメタン」粕さん「下妻の地下水」天谷さん「COD」測定法」田沼さん「雨水処理施設」が発表された。

水質汚濁分科会の討論では、浄化技術の進歩では、水問題は解決できない。生活のあり方の問題であり、科学にかける哲学が必要とまで議論が進んだ。

2日目、明日の多摩川を考えるシンポジウムでは、10年をこえる歴史をもつ多摩川の自然保護団体の共同行動の貴重な実績が発表されたが、「10年をふりかえって、多摩川の状況は明らかに悪くなった。自分達の運動がなければ、もっと悪くなるのを、くいとめた」という森田さんの発言は印象的だった。

開発に対して、自然保護だけでなく、もっと流域の社会構造を考えるべきだという議論や野球をする人達も自然を求めているのではという質問に対する河原の自然保護運動にうってかかるのは彼らだという毎日接している実情の話など討論され、都市に住む人間の自然に対する価値観が変化しているという指摘も出された。

6. 28 第46回事務局会議 7名

県知事に対する質問書案検討 7月10日導水問題勉強会の折、提出することにきまる。

霞ヶ浦だより11号発行

6. 30 県環境局公害対策課から、水生生物による河川水質の簡易調査についての照会

7. 10 〔霞ヶ浦総合開発と導水事業説明会〕

県関係出席者 於 県南総合事務所

小池達男 建設省霞ヶ浦導水工事事務所長

石川省吾 茨城県水土地対策課長

鈴木敏博 ” 係長

萩野谷衛 霞ヶ浦対策課副参事

深沢幸義 “ 技 師
椿 一則 “ 主 事

(説明内容は本誌57P参)

茨城県知事 竹内藤男殿

1984年 7月10日

霞ヶ浦浄化の施策に対する質問

私達、霞ヶ浦をよくする市民連絡会議は、結成以来、霞ヶ浦の水環境をよくするための活動を行って参りました。待ちに待った富栄養化防止条例も施行され、条例の基本計画の中にきめ細かな施策が盛り込まれ、私達も条例施行後の水質の改善に多大の期待を抱き条例推進に協力してまいりました。

しかしながらまことに残念なことに環境白書など県発表のデータによりまして、また私達、霞ヶ浦をよくする市民連絡会議の行った“市民の手による市民のための水質調査”で条例施行前と施行後流入河川 200箇所以上の調査データ(清流はどこにいった No. 2)によりまして少しもきれいになっていないどころか水質はますます悪化のきざしをみせて居ります。条例が出来ていないのにもかかわらず、水質が改善されつつある諏訪湖と比べますとまことに残念です。

そこで条例が出来たのになぜ水質が改善されないかじっくり考え、原因を分析して見る必要があると思われまます。私達の熱意をお汲み取り戴き以下御解答をお願い申し上げます。

1. 霞ヶ浦富栄養化防止条例適用内で4箇所ある、屎尿処理場の排水のデータと今後の対策。
2. 下水道の整備計画、年度別の計画達成率。
3. 下水道未整備地域に対して土壌浄化法などによる小規模処理施設の建設を実施中ときましたが、その実態と予算、今後の計画。

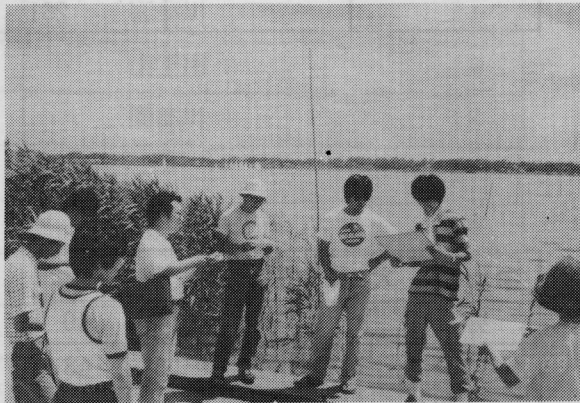
4. 44市町村のそれぞれの生活雑排水対策に県はどう指導し、その結果どのような成果が上がっていますか。
5. 条例適用工場(20^m³/日以上)のリストと排水の実情。
6. 工場の立入検査、指導、助言、勧告、罰則の適用状況。
7. クローズドシステム設置の状況
8. 条例後、粉石鹼の使用運動が前ほど熱心でないように見受けられますが、粉石鹼使用運動の実態。

知事に質問書提出

7. 25 第47回事務局会議 9名

水質調査の具体的な実行計画

7. 29~8. 13 第3回 霞ヶ浦流入河川の水質調査。



桜川下流での水質調査

筑波大水の会 土浦工業高校 他

地 域	調 査 月 日	サ ン プ ル 数	緑の国勢調査	ききとり調査数	参 加 人 数
桜川・中下	7月29日	17	8	6	17
桜川上	30	9	4	3	9
花室川	31	13	6	0	10
美浦村	30	22	0	0	
阿見町	8月1日	9	5	3	6
土浦	2	14	1	3	8
新利根川	5	12	6	4	12
谷田川	12	10	1	2	15
出島	13	19	1	2	4
美浦村	13	22	0	0	
荒川沖	13	13	0	1	2
園部川	4	13	9	2	4
恋瀬川	7	23	5	3	9
巴川	11	10	6	1	10
北浦	4・5	26	0	5	4
潮来	5	29	0	0	7
		261	52	35	117

(分析班, 中学生を除く)

参加者	大人	子供	不明	合計
男	30	9	1	40
女	34	8	6	48
不明			7	7
合計	64	17	14	95

7.31 知事からの回答を, 霞ヶ浦対策課小沢主査が車で届けに来てくれた。せっかく土浦に来たのだから, 土浦港へ寄ってアオコを見て行ってほしいとお願いしたが, だめであった。*知事からの回答は次号に

8.14 参議院議員 美濃部亮吉氏アオコを

見に来浦。あまりの臭気にびっくり。水質調査終了ご苦労様会 15名 奥井宅

9.7 第48回事務局会議 7名 水質調査のグループ別データの検討

9.14 霞ヶ浦だより12号発行

9.26 NHK 3チャンネル“日本新地図”に水質調査団が協力することで打合せ。土浦1中大内恵理子さんと美浦中学校の水質調査班。

* 知事からの回答は次号に

〔水質調査チッ素上位ランク〕

順	アンモニア態チッ素(NH ₄ -N)	硝酸態チッ素(NO ₃ -N)
1	㊤ 6.6	桜川(し尿処理場下) 47.4
2	㊤ 5.8	美浦 馬掛湧水 13.4
3	はす田(出島) 5.1	美浦 井戸 11.5
4	㊤ 4.7	東宝ランド住宅排水 9.7
5	㊤ 4.6	美浦 高橋川 8.2
6	㊤ 4.6	園部川 7.9
7	小野川(し尿処理場の下) 4.5	園部川支流(竹原) 6.6
8	㊤ 4.5	川尻川(出島) 5.4
9	㊤ 3.9	天の川 中野橋 5.2
10	㊤ 3.9	川尻川(出島) 4.4
11	㊤ 3.8	小野川(し尿処理場下) 2.5
12	㊤ 3.5	園部川(") 2.3
13	㊤ 3.4	ため池 2.2
14	新 川(鉄橋下) 3.3	園部川 2.1
15	山田川(北 浦) 3.1	山王川 1.9
16	備前川 2.7	園部川 1.8
17	備前川 2.7	" 1.7
18	美浦排水路(西) 2.5	桜川 羽田橋 1.6
19	小野川(7G04 下流) 2.4	中里川(北浦) 1.6
20	園部川(し尿処理場下) 2.4	桜川 1.6

㊤は荒川沖側溝

水質調査のくわしい事は“清流はどこへ行った”Ⅲに記載

土浦の自然を守る会経過報告

— 1983 —

6. 15 市民連絡会で桜村給食センター見学
6. 16 公害研から資料調査 桜川編集会議
6. 18 例会
6. 25 生産技術研究所の長谷川氏，潮来で実験したフードチェーンリングの実験データ届く。
6. 26 木田余の湖北下水処理場から田村にかけての湖岸に霞ヶ浦の昔の姿が残っている。境川河口に魚が多いせいか野鳥が多い。湖岸堤の作り方を工夫して何とか保存出来ないかとの声，保立，奥井，現地視察に行く。
1. 下水処理場の団地は県の団地なので調査を県議に依頼する。
2. 野鳥の調査の必要
6. 28 滋賀県生活環境部より浅井氏，伊藤氏世界湖沼環境国際会議プレ会議の参加依頼と守る会資料調査
7. 2 市民連絡会議事務局会議
筑波大環境科学院生 3 名に説明（原田，奥井）
7. 14 市民連絡会議 水質調査打合せ
7. 16 例会 6 人出席
1. 水質調査の件 現地方式で実施
2. お客様として出席した真崎氏から 6 月 23 日，社会党から県に提出した“空中散布と筑波山のガマ”についての説明
7. 19 筑波大学生資料と説明，平戸さん水質調査の件，中里君アユの件
7. 20 市民連絡会議事務局会議
7. 22 水質調査団会議
7. 27 市民連絡会議事務局会議
8. 4 滋賀県大津市琵琶湖研究所で世界湖沼環境会議プレ会議の打合せ 奥井
8. 6 水質調査石岡方面 酒井，平戸グル

ープ参加

8. 7 水質調査土浦市内 須田直之，須田義之，佐賀，高木，真山，松田，奥井，中内，柳沢，西野，岩崎
市民連絡会議水質調査ご苦労様会 12 名参加
8. 10 亀城公園内の松にサビカミキリ出現 茨大鈴木先生の案内で夜，見に行く。奥井，中沢 夜 11 時頃が一番多い。
8. 20 例会
8. 24 市民連絡会議 学校給食から LAS を追放する要望書を教育庁と学校給食会に提出
8. 28 亀城公園のサビカミキリ大量発生，江戸崎高井上先生と茨大鈴木先生の案内で，市，生活環境部長海上氏を呼び出して奥井と 4 人で見てまわる。対策について話しあう。
8. 29 土浦市都市計画課公園係の神戸氏と会いサビカミキリ対策について
1. 切り倒した松の切り株から大量の虫が発生しているので，焼却又は殺虫剤で切り株からの発生を防ぐこと。
2. 当分，夜間 11 時頃サビカミキリの交尾中をつかまえること。
要望する，市ではカミキリ虫対策班をつくって取ってくれることになった，松が枯れなければしめたもの。
9. 7 桜川校正
9. 9 市民連絡会議 事務局会議
9. 13 “日本水産資源保護協会”の映画“富栄養化”に協力
9. 16. 17 世界湖沼環境国際会議プレ会議に，市民から見た霞ヶ浦水質浄化運動”を発表，奥井
9. 23. 24 合成洗剤研究会

9. 24 例会 7人 桜川配布の件
桜川20号完成
9. 30 桜川本屋さん配布 広瀬, 奥井
10. 1 ハガキ案内 中沢, 真山
10. 3 市民連絡会事務局会議
10. 8 例会10人
“座談会” 富栄養化防止条例実施1年をかえりみて
10. 15 市民連絡会議 水質調査報告会
当会のグループ所見を須田, 佐賀, 平戸
発表
11. 5 水質調査データ打合せ 原田, 奥井
11. 7 水質調査データのまとめ 原田, 奥井
11. 8 水質調査データのまとめ
高橋, 原田, 奥井
11. 10 市民連絡会議事務局会議
12. 5 市民連絡会 水質調査報告書分担打合せ 高橋, 原田, 奥井
12. 17 忘年会 会費1,000円 童話館にて
18人出席
亀城公園で青大将7匹を35万円で業者に依頼して殺した件について議論, あるべき都市公園の姿を含めて, 街づくりへの提言を市の方に出すことに決定。霞ヶ浦野鳥の観察会を筑波大自然研と共同で実施する。牛久沼の競艇場が市民の反対でだめになり, 次に霞ヶ浦へ目を向けている可能性が強い。この事について市と県に申し入れをしておく。
12. 24 市民連絡会議忘年会
12. 27 事務局打合せ6人 市へ街づくりの要望書提出の件
59. 1. 5 土浦の街づくりへの提言を要望, 市提出分の要望づくり, 取手フジランドの件で山口氏より電話。
1. 6 取手の元橋さんから連絡, フジランドという名目で動物の絵の画いてある塀が住宅地の中に立った, 町内会長さんは知らずに印を押してしまったが, 産業廃棄物の捨場

で, しかも県外の廃棄物である。右翼と対抗する勢力らしく右翼のピラがベタベタで困っているとの事, 産業廃棄物関係については原田さんから専門家藤原氏に連絡してもらう。

1. 12 市への要望書について須田義之さんと打合せ

1. 14 土浦市へ要望書提出

保立, 佐賀, 栗原, 須田, 真山, 中沢, 高木奥井, 市側から 鈴木, 島田, 海上

〔要望書〕

予算編成にあたり, 自然保護及び環境保全関係の左記事業をご検討いただきたくお願い申し上げます。

1. 霞ヶ浦湖畔の植樹

琵琶湖の水質が比較的良好に保たれていることの一つに, 湖のすぐ近くに山林が迫り, 植物によるリン・チッソの吸収がよく行なわれているからだと言われています。滋賀県では, 湖畔の植樹に力を入れていると聞いています。

水質浄化のためにも, 又, 子どもや若者に, 自分のふるさととしての水と緑の街土浦を印象づけ, 愛着を持たせるためにも大岩田の運動公園附近の湖畔に, 土浦で生まれた子どもの誕生を祝って, 子どものネームプレート付きの植樹をしてもらったらいかがでしょうか。ネームプレート代を, 両親, 祖父母持ちとして, 希望者のみとすれば予算はあまりかからないと思います。あと20年経って若者になった子どもたちは, きっと自分のネームプレート入りの木のあるこの街を忘れず, 愛し続けてくれるだろうと思います。

2. 市の象徴としての樹木を選定し, あらゆる空地に植樹を行なう。

土浦の街の印象として, 街路樹が少なすぎ

るということを、他県から来た人々によく指適されます。周辺部には、かなり縁は残っていますが中心部は年を追って少なくなりつつあるのが現状です。

これを改善するためには、市の象徴としての樹木を、小木、中木、高木、落葉樹、常緑樹として計6種類を選定し、都市計画課などで常時安く市民に販売し、道路、駐車場、小さな路地などあらゆる空地に、これらの樹を植樹するように5年計画をたてて欲しいのです。

3. 森林浴と野鳥のサンクチュアリ（聖域）

大池附近には貴重な自然が残されています。この附近の自然を聖域として保護し“森林浴”の場とし、また、野鳥の観察小屋を目立たない場所に立てる。これは小・中学生たちの理科の勉強にも役立つでしょう。

4. 土浦、霞ヶ浦と学園を結ぶサイクリング道路

学園都市には、子どもが安全にマラソンやサイクリングの出来る道路がありますが、土浦には、桜川の土手の一部が実現しただけで、学園から霞ヶ浦まで出るのには、危険な所を何ヶ所も通らなければならないのが実状です。県でもこの問題には力を入れてくれていますので、学園から桜川を通過して霞ヶ浦のほとりの水郷へ行けるサイクリングロードの整備をお願いいたします。

1984年1月

土浦の自然を守る会

1. 23 取手市に産業廃棄物特別対策委員会が発足したこと。元橋さんから連絡

1. 25 市民連絡会事務局会議

2. 4 高架道問題をふまえてのアンケート

作成のため集る。佐賀、保立、中沢、須田、雨谷

2. 5 “霞ヶ浦野鳥観察会”指導は筑波大環境教育プロジェクト植原彰君他6名、かざぐるま7名、湖北文庫、いなみ文庫、物語り文化の会の子どもたち20人、やみなべなどをして賑かな会であった。雨谷、須田、広瀬、原田兄妹、奥井

2. 9 高架道アンケートについて検討、アンケートそのもののあり方について意見続出とりあえず会員アンケートにすることで決着。須田、佐賀、柏村、中沢、高木、真山、保立、広瀬、奥井

2. 17 市民連絡会議

2. 24 霞ヶ浦を考える県民の会 最終日席上で競艇場問題を提案、水質保全の上からも絶対不可能であるとの解答を得た、竹内副知事 環境局長（奥井）

大人が読んでも、子どもがよんでも読みごたえのある本を紹介します。

＜愛をもとめて動物たちと＞ 藤原英司著
国土社 毎日中学生新聞連さいの物語。
サファリパーク造りに執念をもやす男たちのエゴの犠牲になって死んでいく野性動物の悲劇をえがく野心作。一気に終りまで読んでしまう迫力がある。著者の藤原さんは当会会員・エルザ自然保護の会会長。

＜冒険する頭＞ 新しい科学の世界
西村肇著 筑摩書房 ちくま少年図書館
著者は東大工学部でシステム工学の教授
システム工学から環境問題へと目をひろげていく。四日市の海、瀬戸内海汚染の研究
自動車の排気ガス問題へと、新しい科学の展開を予想する、真の科学とは何か、考えさせられる貴重な本。



望遠鏡で野鳥を観察、意外な発見も

スズメから再発見

霞ヶ浦畔に野鳥を見る

土浦のチビツ子、筑波大生の指導で

霞ヶ浦の水鳥や周辺を飛ぶ野鳥の生態を子どもに見せようと、土浦市湖北の霞ヶ浦浄化センター周辺で鳥の観察会が開かれた。同市内の二つの子ども文庫、児童館と湖北文庫、そして土浦の自然を守る会の呼びかけで、開いたもので、二つの文庫に集まっている幼稚園生や小学生ら約十人が参加。案内役を買って出た、筑波大の自然教育研究会「ネッシー」の学生や同大のサークル「かぎくろま」のメンバーらが、鳥の名前や特徴、歩き方など分かり易く教えた。

午前九時に浄化センター近くの児童公園に集まった子どもたちは、厚手のジャンパーなど着込んで、寒さ除けのスタイル。背から双眼鏡を下げ、手には野鳥のカラー図鑑を持って出発。霞ヶ浦の岸辺に向かう途中、民家の間の道路わきに立ち止まって、双眼鏡をのぞき込み手近な鳥を観察。子どもたちは最初に目についたのはスズメ。一年中飛び回っている鳥で、子どもたちにとっても珍しくないが、双眼鏡や野鳥観察用の望遠鏡でよく見ると、羽根の色や模様、歩き方などよく分かり、

「スズメは両足をそろえてチョン、チョンと跳ぶようにして歩く」と特徴を「発見」していた。観察のアドバイスをした同研究会のメンバーのひとり、同大四年生の植原彰さんが作った子ども向けの観察ノートはぬり絵、色鉛筆などを使って色付けすることで子どもたちが見た鳥の特徴を覚え易くするアイデア。スズメの他には、シベリアから飛んでくる冬鳥のツグミも見られた。

浄化センターそばの霞ヶ浦の岸辺にはカモ類が群れをなして羽根を休めている場所があり、カルガ

の原野を残している。参加した自然を守る会の会長の奥井英子さんは、「霞ヶ浦情緒豊かな場所だけにこのままの形で残せば、ぜひ若い会員のたちとも話し合っている」と話していた。

3. 3 霞ヶ浦をよくする市民連絡会議

総会 亀城プラザにて

3. 6 街づくりへの要望に対して市から解

答

昭和59年3月6日

土浦の自然を守る会

土浦市長 箱根 宏

1. 霞ヶ浦湖畔の植樹について

(答) 都市環境のうえで重要な役割をもつ緑地の保全については、現在、将来とも可能な限りの努力をいたしますとともに、霞ヶ浦総合公園及び他の公園緑地、さらには公共用地などにも積極的に緑化をすすめてまいります。

記念植樹については、ご趣旨は十分理解されますものの、管理面で問題が残りますので、今後の課題として検討してまいりたいと思います。

2. 市の木を選定し、あらゆる空地に植樹すること。

(答) 市では調和のとれた魅力あるまちづくりを目指して、昭和56年第三次土浦市総合計画を策定し、都市基盤の整備をはかっています。中でも緑化については、年次計画にて鋭意配慮いたしているところではありますが、まだ十分とは云えない面もありますので、今後とも一層の努力をいたしてまいりたい所存であります。

市の木、市の花の選定についても、緑化推進上、誠に望ましいことですので、各方面の情報、意見等をふまえながら今後の課題として検討いたしてまいりたいと思います。

3. 森林浴と野鳥の聖域をつくること

(穴塚大池付近の自然保護)

(答) 穴塚大池周辺は、自然の宝庫として貴重なものです。この穴塚大池を含めた上高津、佐の子、粕毛一带は研究学園都市との結節点に位置し、土浦学園線、土浦岩井線といった幹線道路にもはさまれ、本市の将来の新たな拠点地区としての可能性も秘めた地域といえますから今後、この地域全体の土地利用を検討してゆく中で、具体的に穴塚大池付近の自然をどう保護し、活用していくか明確にしたいと存じます。

4. 土浦、霞ヶ浦と学園を結ぶサイクリング道路の整備について

(答) 昭和57年度より県事業(3か年計画)で学園都市より桜川匂橋付近まで自転車歩行者道を建設するものであり、一部供用開始区間もあります。

市もこれに接続して、匂橋より霞ヶ浦総合公園まで計画しております。現在、県と市において学園大橋より桜川保育所付近まで工事は終了しており、本年度も工事を引き続き実施すべく計画いたしました。桜川河川改修のため、昭和58、59年度は工事を一時休止しております。

このため、市の単独事業として、匂橋、霞ヶ浦総合公園ルートについて、昭和58年度は匂橋から水郷橋下まで工事を予定しており、昭和59年度は、備前川の左岸を整備し、サイクリング道路の利用を図ってまいります。

3. 9 市民連絡会議事務局会議 当会は総務担当

3. 10 総会案内のハガキ

3. 21 参議院議員美濃部亮吉氏美浦について秘書の井上氏と打合せ、目的は参議院に上

程されている湖沼特別措置法案について霞ヶ浦牛久沼手賀沼の見学と地域住民の意見をきくため。・住民運動によってクロズドが実現したテキサスインスツルメンツ社の排水処理施設を美浦村長市川氏の案内で見学、水道水の取水口見学、県水道企業局の生物処理施設を見学・今と昔の霞ヶ浦について佐賀氏、田谷氏と懇談・土浦の自然を守る会総会にお客様として出席

美濃部議員が霞ヶ浦を視察

「住民運動を高く評価」(朝日新聞 3.27)

美濃部亮吉参議員(80)が26日、霞ヶ浦の水質汚濁の現状を視察するため、稲敷郡美浦村のテキサスインスツルメンツ工場と土浦市大岩田の県霞ヶ浦水道事務所を訪れた。

美濃部議員は東京都知事時代から公害問題や環境問題に関心が深く、現在は、国会での湖沼法成立に特に力を入れている。そのため、北海道の小樽運河、松江市の宍道湖、鹿児島島の志布志湾など開発・環境破壊にさらされる各地の実態調査に訪れており、今回もその一環。

時子夫人(56)らと共に美濃部議員は、土浦の自然を守る会の奥井登美子会長の案内で同日午後、まず美浦村へ。インスツルメンツ工場は55年に同村が誘致した半導体工場。1日1,800トンの排水が霞ヶ浦へ向けて流されそうになった際、同会会員や、当時同村議だった市川紀行現村長らが中心となって住民運動を起こし、内部排水処理施設(無排水クロズド)を設置させたいきさつに感心しながら聞き入っていた。

視察後、美濃部氏は、「霞ヶ浦の地域住民運動は高く評価出来る。行政と一体となって運動を進めていけば水質改善の希望はもてると思う」と感想を述べた。27日には牛久沼と千葉県の手賀沼を訪れる。



県企業局で生物処理のハニカムチューブの説明を高橋所長からきく美濃部さん

3.26 総会 於 童話館 20名

土浦の自然を守る会総会

1. 美濃部亮吉氏を迎えて

- ① 紹介
- ② 挨拶

2. 総会

- ① 経過報告
- ② 会計報告
- ③ 会員のおたより紹介
- ④ 本年度事業計画
 - ㊦ 緑の国勢調査
 - ㊧ 水質調査
 - ㊨ 「桜川」
 - ㊩ 土浦市の緑化計画
- ⑤ 意見交換

昭和58年度決算報告

自 昭和58年 4月
至 昭和59年 3月

収入の部			支出の部		
科目	金額円	摘要	科目	金額円	摘要
1.会費収入	112,000	56名分	1.事業費	27,000	事務所費 24,000 霞ヶ浦をよくする 市民連絡会議会費 3,000
			2.機関誌印刷代	280,000	
2.機関誌販売	131,720	20号分 71,900 前号分 59,820	3.印刷代	5,970	コピー代(霞ヶ浦文 献目録他) 4,500 印刷インキ, 原紙 1,470
3.寄附金	1,200				
4.雑収入	7,688	銀行及び郵便局利 子	4.通信費	26,200	桜川郵送代 250円×62人×100円 = 15,600 同封筒100枚 800 往復ハガキ(継続 可否総会) 9,800
			5.雑費	0	
前期繰越	315,477		次期繰越	228,915	
収入計	568,085		支出計	568,085	

会計 中 沢 玲 子

- 横町つくり運動
- 緑化づくりに桐をとり入れてほしい
- 湖沼法制定への動き
- 霞ヶ浦人口島への不安
- P4 施設

59年度役員

会 長 奥井登美子
副 会 長 保立 俊一
事 務 局 真山 高木 中沢 広瀬 佐賀
飛田
会 計 中沢 横手

運 営 委 員 篠崎 原田 酒井 須田 大内
木村 山家 田谷 波井 中原
平戸 栗原 柏村 平賀

4.10 資料館のお花見打合せ

4.11 お花見会通知

4.14 土浦市民憲章推進協議会総会出席

4.22 お花見会 土浦郷土資料館と合同

新川の桜を残すことが出来たよろこびを草もちにたくして資料館で草ダンゴと昔のさむらいかごを用意, 楽しい会だった。10名出席
窓愛園といなみ文庫の子どもら40人

〔22日の日曜日には, 新川堤で, 市郷土資料館と土浦の自然を守る会(会長 奥井登美子さん)の音頭とりによる「花まつり」が催されました。この日は「花曇り」の少し肌寒い一日でしたが, 招待された養護施設・窓愛園児童とともに近所の子どもたちも多勢集って, 爛漫と咲きほこる桜のトンネルのもと, つきたての草もちを腹いっぱい食べたり, 資料館

が復元した「さむらいかご」に乗ったりして楽しくすごしました。〔広報つちうらより〕

4. 23 亀城公園わき駐車場の件で市民の須藤氏から電話、早速市の環境部に連絡調査

4. 24 環境部長からの返事で、駐車場をひろげる事実はないとのこと。

4. 25 市民連絡会事務局会議

5. 19 例会 5名 桜川21号の件

5. 24 市民連絡会議事務局会議

環境庁の緑の国勢調査の調査表届く、内容はかなりむずかしそうなので県の環境局に電話 県内にボランティア団体がいくつあるのか、調査してほしい、それについて県の方で勉強会など開催してもらえるかどうか問合せをする。

5. 22 中原建司氏(29才)5月6日死亡の由より連絡 父親中原勇氏

5. 31 事務局会議 桜川編集の討議 会員アンケートの作成送附

研究交流センターで昆虫研究者の会発表会 真山、奥井出席 松枯れについて鈴木幹男氏の発表、反対派の人たちの異様な感情的としか思えない発言にびっくり。

科学というのは事実の積み重ねなのだと思ふ。

6. 1 県環境局長津田氏より緑の国勢調査の参加ボランティア団体の数は県内810団体(個人)調査に環境庁まで行ったが名簿は不明で連絡のしようがない。環境庁の仕事であるが市民の善意なので協力してくれる団体からの要請があれば講師を派けんすること。

6. 1 市民連絡会議 水質審議会の答申について茨大田淵俊雄先生を囲んで勉強会、童話館

6. 8 世界湖沼環境国際会議の件で連絡受ける。

6. 13 真壁町へ生ゴミ処理器具の見学と実際に使用している料理屋さんに行ってみる。

市役所、環境部の人にも参加してもらおう。

真山 奥井

生ゴミ処理器開発



真壁陶土器協組

家庭向け売り出し

7人グループで製造

新しい生ゴミ処理器の開発に成功した。この装置は、家庭用の生ゴミ処理器として、7人グループで製造された。この装置は、家庭用の生ゴミ処理器として、7人グループで製造された。この装置は、家庭用の生ゴミ処理器として、7人グループで製造された。

6. 14 安全食品の会からの空中散布反対の手紙に返事を出す。

6. 16 例会 7名

○ 緑の国勢調査の勉強会、当会は須田先生、須藤先生を講師として7月1日実施

○ 世界湖沼環境国際会議に佐賀さんに出席発表してもらう件

○ 街づくりへの具体的提言

○ 生ゴミ処理の実際

○ 亀城駐車場の件についてS氏に出席 説明を求めたが忙しいからダメとのこと。

6. 18 市議会で、川口玉留氏農薬の空中散布についての質問、八文字部長の返事は農業

関係の団体と話しあいの上、中止するかどうかきめる。

6. 21 世界湖沼環境国際会議の打合せに
滋賀県 2名, 大阪 高田昇氏

6. 22 県土木 横倉さんから電話, 仮橋の
さまたげになる木を1本移植, 河川敷にある
ヨシキリの巣の問題

6. 23 事務局の会議 勉強会 案内出す。

6. 24 野鳥の会川崎氏に電話, 学園の川村
氏を紹介してもらう。野鳥の会学園支部
0298-64-1171 (職) 51-1013 (自宅)
ヨシキリの巣は巣立ちを待ってから草を刈っ
てほしいと申し入れる。

6. 28 市民連絡会事務局会議

7. 1 [緑の国勢調査協力のための自然観察
会] 6号国道桜川橋集会 7名

7. 10 市民連絡会議 [霞ヶ浦総合開発と導
水事業説明会] 県南総合事務所

7. 19 安全食品を考える会 (桜村並木2-
12塚原方) から農薬の空中散布に関する要望
書に同調する件。

7. 21 例会

- ・空中散布反対に同調する。
- ・水質調査打合せ
- ・土浦 新川境川備前川
- ・石岡 山王川恋瀬川
- ・阿見町婦人会への協力依頼
- ・世界湖沼環境会議の紹介

7. 29 桜川 水質調査 亀城公園のフクロ
ウ落ちる。

7. 30 水質調査手引き 調査表 印刷出来

7. 31 水質調査阪東事務所へ調査表届け
県・霞ヶ浦対策課より知事への質問書返事をも
って阪東事務所へ3名, 帰りにアオコが大
発生した土浦港を見て帰ってほしいとお願い
したが忙しいとのことだめであった。

8. 2 土浦市内の河川 水質調査 8名
今年は朝7時に集合したせいか午前中に終る。

8. 7 石岡市内の河川 水質調査 9名
かつてワースト1だった山王川が, 河口附近
でかなりきれいになっていて, うれしかった。
それに較べて土浦の新川は21億円もかけてな
ぜきれいにならないのだろうか。

8. 14 美濃部亮吉参議員議員 アオコ見学
に見える。折しもひどいアオコ臭と暑さの中
で海上環境部長の案内でアオコ収集船とオイ
ルフェンス, バキュームカーでの吸引を見学。
抜本的対策になってはいないと痛い指適。3
月に来浦された時に, 8月半ばの一番アオコ
のひどい時にぜひもう1度来て下さいと申し
上げておいたものの, 本当に約束を守って来
て下さるとは…… 真面目な政治家も一人存
在することがわかってうれしかった。「ほかに
このアオコのひどい時に国会議員の方何人
お目えになりましたか?」ときかれて絶句。
終ってアオコ色した抹茶ドリンクで乾杯した。

8. 19~8. 23 土浦市内水道水異常白濁と泡立。

市水道部へ柏村さんが問合せたところ「工
事中なのですぐ直ります」「一時間放流して
みて下さい。料金は払い戻しします」「水道
中に空気が入っただけです」納得出来ないとい
う主婦から守る会の事務所にも, 子供に飲
ませて大丈夫ですかとの問合せ。市の水道部
ではその都度返事がちがっていて話にならない
ので県の企業局 高橋所長に電話してきい
てみた。「水温が32℃以上になり, どういう
わけか凝集沈澱が不可能になってしまった。
こういう事ははじめてなので, 対策を講じな
いまま19日~23日まで濁度2近くで流してし
まったが23日は気温が下がったのでもとどおり
になった。有機物が溶解しただけなので水質
については大丈夫。安心して飲んで下さい」
水温の上昇の影響で企業局からの元の水が異
常とわかった。これでは何時間放流しても白
濁が治るわけがない。

8. 25 アンケート 佐賀さんがワープロで

つくる。

8. 26~29 市内アオコの臭気調査と飲料水アンケート I

アオコと水道水についてのアンケート

霞ヶ浦の水の汚染は例年になくひどい状態ですが、最近とくにアオコの放つ不快な悪臭によって悩まされている人々が多くなり、同時に水道水に対する不安が高まっています。このアンケートはその実情を知るために行なっています。ご協力をお願い致します。

住所 _____ 年令 _____ 男女 _____

1. あなたは最近、水道水に異常を感じますか。
イ. はい ロ. いいえ
2. 1. と答えた方におたずねします。どのような異常を感じましたか。
a. 飲み水
1. 濁る : 白濁 . 緑濁 . 赤濁 . その他
2. 匂いの異常 3. その他
b. 風呂水
1. 濁る : 白濁 . 緑濁 . 赤濁 . その他
2. 泡が立つ 3. その他
3. あなたは水道水を飲むことに不安を感じますか。
イ. はい ロ. いいえ
4. 1. と答えた方におたずねします。
あなたは水に対する不安について誰かに相談しましたか。
a. 近所の人と話し合った
b. 市役所に電話した
c. 水道事務所に相談した
d. どうするべきかわからなかった
e. その他
5. あなたの家までアオコは臭いますか。

イ. ひどく臭う

ロ. 風向きによる

ハ. 臭わない

6. ご意見がありましたら書いて下さい。

1984年8月

土浦の自然を守る会

8. 27~31 84' 世界湖沼環境国際会議

佐賀さんの発表にあわせて霞ヶ浦から持参したアオコを会場内全員にかいでもらった。

湖沼環境の創造と住民の役割

会場：大津市民会館

開会あいさつ 木原 啓吉

I 湖沼と住民…共通認識を持つために 水環境と住民

高田 昇〔都市・地域計画家〕

水環境をめぐる住民運動

似田貝香門〔山梨大学助教授〕

II 環境保全・創造の実例…世界からの報告 イギリスのナショナルトラスト

L. E. M. リッチ〔イギリス, ナショナル
トラスト海外広報担当〕

フランスの湖沼環境保全

W. G. クレ〔フランス・ツールーズ第一大
学講師〕

フィンランドの湖の水質保全

R. K. リュハネン〔フィンランド, ヘル
シンキ大学教授〕

アメリカ合衆国における湖沼保全のための
住民努力

A. ロスマン〔アメリカ, カリフォルニア
大学教授〕

Ⅲ 環境保全・創造の実例…日本からの報告

琵琶湖の湖沼環境をめぐる経緯

阿部泰隆〔神戸大学教授〕

琵琶湖と住民の生活—その歴史の連続性回復への願い

橋本鉄男〔民俗学研究者〕

石けん運動から琵琶湖条例へ

林 美津子〔滋賀県消費学習グループ連絡会長〕

水辺と景観の保全

中田全一〔よみがえる近江八幡の会事務局長〕

琵琶湖を素材とした環境教育の試み

川崎睦男〔滋賀県中学校教育研究会環境教育部会研究委員〕

霞ヶ浦水質汚染に対する市民の対応

佐賀純一〔土浦の自然を守る会〕

よみがえれ諏訪湖

竹野入宗宏〔諏訪湖浄化推進連絡協議会長〕

テーマ〔環境保全・創造に向けての参加と連帯〕

話題提供

住民と管轄官庁の間における今後の望ましい関係

A. ロスマン〔アメリカ、カリフォルニア大学教授〕

フランスにおける住民参加の考え方と参加システム

W. G. クレ〔フランス、ツールーズ第一大学講師〕

戦後日本の公害反対住民運動の特徴

宮本憲一〔大阪市立大学教授〕

9. 1 茨城大学公開講座“霞ヶ浦の現状と今後の課題”はじまる。当会からの出席者は7名

9. 3 大津市での国際湖沼会議でアオコの実物を見たアメリカの研究者ボールマンさんとアンダーソンさんが「こんなものが湖の水であるはずがない」といって実物を見に来た。

9. 4 ボールマン氏アンダーソン氏の現地見学。案内佐賀 原田 奥井 土浦港のアオコ、新川、ハス田、養殖鯉、ブタ小屋、上水道事務所

9. 8 茨大公開講座“霞ヶ浦の富栄養化とアオコ”高村義親氏アオコのふえ方がバクテリアに近いために、バクテリアと分類する学者が出ている話 などなど……。

9. 11 水道料金の徴集で、市へ電話した人だけが料金が割引きになっているのを発見。

9. 12 水道料金の件で市の水道部へ電話、「水が濁った場合は1時間放出が常識で、常識通りにやって、しかも水道栓の番号を通知した人だけが割引きになっている」とのこと。料金の通知表に“犬の放し飼いはやめましょう”と書いてあるけれど、にぎった時の常識については何も書かれていない。常識というのなら書いておいてほしいと申入れる。

清濁の「証人」住民が持参

穴道湖・シジミ 霞ヶ浦・アオコ

「アオコ」が大発生するおそれがある。茨城県霞ヶ浦から、汚染を放つ植物性プランクトン「アオコ」。「淡水化による死滅を防ぐ」水質浄化の試みから始まる。

トシメー湖の汚染を心配する市民の「証人」が世界湖沼会議の場から、大津市市民会館に二十日、霞ヶ浦の住民たちの手記と、アオコ、シジミの汚染を放つ植物性プランクトン「アオコ」の試料を、大津市市民会館に持参した。



大津市市民会館で、アオコ、シジミの汚染を放つ植物性プランクトン「アオコ」の試料を、大津市市民会館に持参した。写真：大津市市民会館

大津湖沼の危機を訴え

大津湖沼の危機を訴え、アオコ、シジミの汚染を放つ植物性プランクトン「アオコ」の試料を、大津市市民会館に持参した。写真：大津市市民会館



大津市市民会館で、アオコ、シジミの汚染を放つ植物性プランクトン「アオコ」の試料を、大津市市民会館に持参した。写真：大津市市民会館

大津市市民会館で、アオコ、シジミの汚染を放つ植物性プランクトン「アオコ」の試料を、大津市市民会館に持参した。写真：大津市市民会館



大津市市民会館で、アオコ、シジミの汚染を放つ植物性プランクトン「アオコ」の試料を、大津市市民会館に持参した。写真：大津市市民会館

大津市市民会館で、アオコ、シジミの汚染を放つ植物性プランクトン「アオコ」の試料を、大津市市民会館に持参した。写真：大津市市民会館

9.13 宍道湖を守る市民連絡会の結成講演のため佐賀さん、アオコをもって松江に行く。当日の参加者 800人

9.15 例会 7名 桜川21号のテーマを“水道水の危機”とする。本格的アンケートを行う、水質調査データの検討。

9.17 アンケートの用紙配布、環境庁長官が霞ヶ浦の見学に来るとのこと。何とかアオコの現状をうたえたいと話す。

9.18 県環境局長津田氏に電話し、環境庁長官に陳情書を手わたしたいと話す。

環境庁秘書課に電話で日程と陳情書の件をきく「当日のスケジュールは県の霞ヶ浦対策課がたてているので、そちらがいいといえればよい」津田氏より電話「公式行事として来るので環境庁の方からだめだといわれた。私的なことはさしひかえてもらいたい」市の環境部長の海上氏からも「県の方へ問い合わせたら私的なことはさしひかえてという事だった残念だ」との事。霞ヶ浦の水質問題が私的な事になるらしい。結局、陳情書を県を通して提出するという事になった。

9.19 環境庁長官一行には近付かないまま、県霞ヶ浦対策課長に陳情書を手わたす。

9.21 新日本海新聞酒井さん取材
市環境部長海上氏にアオコ対策班はお役人ばかりなので市民代表（駅長 観光ホテルの支配人などアオコ臭気で困り抜いている人）を入れるように申し入れる。

9.22 茨大公開講座

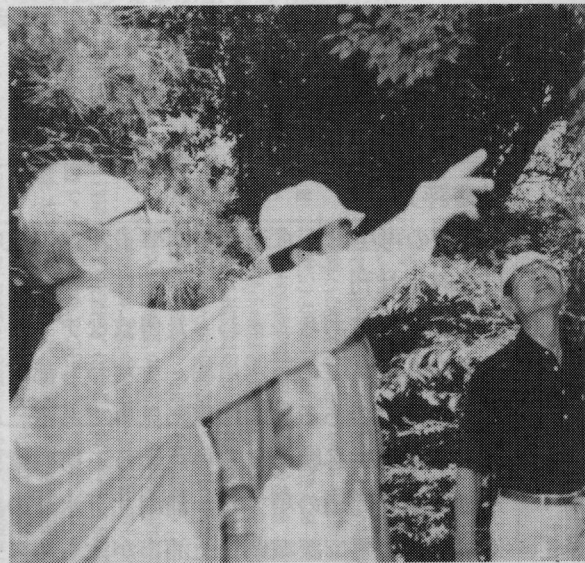
9.26～28 筑波大学で日本陸水学会行われる。
“アオコの毒性について” 東京都衛研の発表
真山、佐賀、奥井出席

9.29 茨大公開講座
真岡の自然を守る会で、霞ヶ浦見学の打合せ。



緑の国勢調査勉強会

59. 7. 1



緑の国勢調査勉強会

59. 7. 1

編集後記

○毎年6月に発行していた桜川が、いつの間にか9月になり、今回はとうとう年を越え、2月になってしまった。大巾におくれた事まことにもうしわけない。経過報告でもおわかりの通り、アオコにふりまわされ、ほとんど毎日のように行事にほんろうされた秋であった。

○アオコ臭気の聞き取り調査をしていて誰もが「いわくいいがたいいやな臭気」という。いったいアオコの臭気物質は何なのだろう？どんな臭気と表現したら一番近い表現になるのだろう。と考えていた。今回、矢木さんの論文を読んでアオコの60%が蛋白質と解って、やっと納得した。アオコの成分は植物成分よりは動物成分に近いのである。アミノ酸の分解した“屍臭+硫化水素臭”とでも表現したらいいのだろうか。

○宍道湖中海の淡水化をしても水質は悪くならないという中間報告を出した農業土木会の南京都大学教授は「アオコの緑色は人間にとって親しみのある色」（読売新聞 59. 11. 1）とアオコをほめている。古典落語に“子ほめ”というのがあるが、まさに“コほめ”である。おそらくこの方は、アオコというものを文献の上でしかご存知ない方なのだろう。環境問題は大学者よりも、地域住民や、農家のおばさんといった人達の方が、より適切に現状を把握している事が多い。 奥井 登美子

<水を求めて幾千里>

臭いがひどく、ましてアオコ入り？とあっては喉を潤す水なぞ望むべきでもないが……米、水に恵まれた所うまい酒ありということから車にポリ缶を入れ先ずは東北へと走る。会津より北へ30分、ある雑誌で歴史の街並みの1つにも選ばれた、蔵のまち喜多方市（福

島県）へ、コーヒー屋もラーメン屋も蔵、トイレまでもには恐れ入ったけど、それはいいとして、酒蔵でまさに本生の水に出会った。飯豊山の雪解水が伏流水となって湧き出る水を仕込みに使うという説明に、酒ならぬ“きき水”をやり霞ヶ浦のわが街に胸を痛めポリ缶に水をもらい呆れ顔の店の人を後に次なる水へと車を走らせた。 真山 淑枝

“万博へ万博へと草木もなびく”のように最近の土浦市は万博一辺倒のようです。その最中に土浦市から土浦市の未来を考えるアンケートが私の手許に届きました。そこで土浦市の首もやっと足もとをみたのだと安心しました。土浦市はいかにあるべきかということは、自然を守る会でも環境問題を考えるうえからは必要なことだということで、土浦市の未来像についてのアンケートを市民の方たちに書いてもらいました。本号にそれを掲載する予定でしたが紙面の都合で次号へとということになりました。市のアンケート調査はどういう結果が出るかわかりませんが、次号には本会でのアンケート調査を載せますのでご期待下さい。 高木 純子

「桜川」 第21号

発行日 昭和60年2月15日
発行所 土浦の自然を守る会
編集人 奥井登美子
連絡所 土浦市中央1丁目8-16
奥井方 電話(21)0260
印刷所 昭和タイプ印刷
電話(21)6309
